

第32回林忠彦賞

「BENZO ESQUISSES 1920-2012」(ベンゾウ エスキース)

奥山 淳志(おくやま あつし)

授賞式・受賞記念写真展を開催しました

■授賞式 4月20日(土) 周南市・遠石会館

地元みなさんに林忠彦賞を身近に感じていただけるよう、これまで東京で開催していた授賞式を今回から周南市で行うこととなりました。

藤井律子周南市長より、受賞者の奥山淳志さんに、賞状と目録、ブロンズ像が贈られました。

奥山さんは、「今回の展示で、周南市のみなさんが弁造さんに出会うということはとてもうれしいことです」と受賞の喜びを語られました。

選考委員の大石芳野さん(委員長)、河野和典さん、小林紀晴さんをはじめ、奥山さんと長年親交のある写真評論家の鳥原学さんのほかご来賓の方々、地元みなさんも多く集まれ、奥山さんの受賞と一緒にお祝いすることができました。



受賞者の奥山淳志さん(左)と藤井律子市長



受賞の喜びを語られる奥山さん



講演される大石芳野さん

■受賞記念写真展

4月20日(土)～29日(月・祝) 周南市美術博物館

作品68点を展示しました。みなさんがひとつひとつの作品をじっくりと見られている姿が印象的でした。



写真展会場での奥山さん
愛用のローライフレックスを手に



会場風景

■奥山淳志氏トークショー

4月21日(日) 周南市美術博物館

当館の有田館長がインタビューする形式で、奥山さんに今回の受賞作を中心に過去の作品も含めて紹介いただきました。

奥山さんは、写真を通して「その人が何をしたかではなく、存在自体のすばらしさ」を伝えたいと語られました。



BI・HI・KU サロンコンサート 2024

若葉とともに心繋がる 和のひびき

6月1日(土) 開演13時～
終演14時30分

周南市美術博物館エントランスホール

演奏曲目(予定) ●春の海 ●磯千鳥 ほか

和楽器の奥深いひびきをぜひご堪能ください。

■コンサートのご鑑賞には「整理券(無料・定員50名)」が必要です。

■5月1日(水)より整理券を配布(場所:美術博物館受付)

■先着順・お一人様2枚まで ■無くなり次第配布を終了

未就学児の入場はご遠慮ください。

最新の情報は当館ホームページでご確認ください。<http://s-bunka.jp/bihaku>
お問い合わせ/周南市美術博物館 0834-22-8880



Shakuhachi

入場無料

整理券が必要です

5/1(水)
より配布

Guitar



出演者

□グループひびき(箏・十七絃・三絃)

□特別出演 田嶋謙一(尺八)

□賛助出演 上西達也(ギター)

宮西達也の世界 ミラクルワールド絵本展

6月28日(金)～9月1日(日)

●午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●月曜休館

※ただし7月15日(月・祝)開館、翌16日(火)休館

8月12日(月・休)開館、翌13日(火)休館

40年にわたり優しさと思いやりのあふれる魅力的な絵本を作り続ける絵本作家、宮西達也。幅広い世代の読者の心をつかみ、『ババはウルトラセブン』、『おまえ うまそうだな』などでけんぶち絵本の里大賞、『きょうはなんてうんがいいいだろう』で講談社出版文化賞絵本賞を受賞しています。人気絵本の原画、作家活動の原点ともいえる学生時代の作品、作画技法の解説などの展示を通して、宮西達也の創作の秘密にせまります。

\\ 小学校の国語の教科書にものっている『にゃーご』の原画も見られるよ。/



『おまえ うまそうだな』2003年 ポプラ社



『ババはウルトラセブン』1999年 学研教育出版

©宮西達也 ©円谷プロ

■一 般 1,200円(1,000円)

■大 学 生 1,000円(800円)

()内は前売および20名以上の団体

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等を所持の方との介護の方は無料

18歳以下
無料

LAWSON

Frozen Party

ピーチ マンゴー

各340円(税込)

LAWSON STATION

ローソン徳山動物園前店 0834-32-8363

※画像はイメージです。

美博クイズ～!〈124〉 もんだい

第32回林忠彦賞を受賞した『BENZO ESQUISES 1920-2012』には、正方形の写真もあるよ。どうしてだろう?



周南市美術博物館
常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ()内は20名以上の団体
※18歳以下および70歳以上無料
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日※ただし、5/6開館、翌5/7休館

展示室 3 コレクション展示室

コレクション展“The color” 6/16(日)まで開催中!



展示風景

カラフル、モノトーン、シック、ポップ。色にはさまざまな特徴があります。今回のコレクション展は色に注目して作品を展示しています。

朝倉南陵(1756-1843)の「牡丹に蝶図」は墨一色で描かれた作品ですが、岩や牡丹、蝶の質感が見事に描き分けられており、色までも見えてくるようです。5月1日から展示が始まるモノトーンの作品もぜひご覧ください。

びびびの美
(2024年3月前半号)



朝倉南陵
「牡丹に蝶図」絹本墨画

展示室 4 林忠彦記念室

旅路のいろどり ~7/31(水)

「東海道」では、街道沿いに残る江戸の面影のほか、林忠彦が心動かされた四季の風景も撮影されています。「ことに新芽におおわれた八十八夜のころには、カラー写真でも絵具でも再現できない、目に染みるような美しさをみせてくれる」(『東海道』1990年 集英社)と林が語ったほど見事な金谷の茶畑ですが、撮影時には、霜よけのファンを付けた高いポールが多数設置されていました。困った林は、ファンを画面に入れずに茶畑の広がりを出すため、超ワイドレンズを使用し、すぐそばの風景を幅広く奥行きも深く撮影したそうです。



茶畑<金谷> (『東海道』)

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は
6/30(日)まで

幼児雑誌「チャイルドブック」1961年6月号に紹介された「うがいのうた」。

まどさんが作詞し、作曲家・磯部俊が曲をつけた童謡を集めて出版された、おかあさんと子どものための歌曲集『ごはんをもぐもぐ』(フレーベル館 1969年)。その中に掲載された「うがいのうた」の歌詞と見くらべてみると、微妙に違ってきます。

このような詩の改稿の理由は、この歌曲集の「はじめに」で、まどさんが述べている“作詞でのこだわりと作曲家への敬意”にあるのでしょう。



徳山の歴史 特設コーナー

「徳山毛利家の端午飾り」
5/31(金)まで展示中

徳山毛利家には、明治41(1908)年生まれ12代元靖氏の初節句にあたって、元家臣や他家から贈られた武者人形が伝えられています。

武者人形とともに、幟や吹き流し、鯉も飾られたようで、飾り方を図示した記録も伝えています。幟の鍾馭像は、周南出身の日本画家・大庭学僊が描いたものです。中国では清の時代に、端午に鍾馭像を飾るようになり、江戸時代の日本の武者人形にも取り入れられました。



びびびの美
(2021年5月前半号)



周南市美術博物館 その他の5月の展覧会

9:30~17:00(入館は16:30まで)

観覧無料

- 第3回山口一水会展 5/10(金)~12(日)(最終日は16:00終了)【展示室1・2】
- 第16回書苑展 5/25(土)~26(日)(5/25は13:00~、最終日は16:00終了)【展示室1】

美博クイズ~! <124> こたえ

ローライフフレックスと
いうカメラを使って
いるからだよ。



奥山さん愛用のローライフフレックス

本を作りたいと思ったら

E-mail: m-nagase@try-angle.co.jp



株式会社 ふじたプリント社

〒745-0801 山口県周南市大字久米3918番地
TEL:0834-25-1600(代)
FAX:0834-25-1601



ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

コレクション展 “The color”
～6/16(日)

第3回山口一水会展 5/10(金)～12(日)

第16回書苑展 5/25(土)～26(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

空調工事等のため、
2025年1月10日まで休館

山口

山口県立美術館 ☎083-925-7788

奈良大和路のみほとけ
—令和古寺巡礼—
～6/9(日)

萩

山口県立萩美術館・浦上記念館 ☎0838-24-2400

古伊万里のモダン
華麗なるうつわの世界
～6/23(日)

萩博物館 ☎0838-25-6447

「萩まちじゅう博物館」20周年記念企画展
再発見 萩の「まち」
～6月(予定)萩博物館開館20周年特別展示シリーズ
その① ジュリアおたあの書状
～5/6(月・休)

長門

香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

没後50年 香月泰男展
第一期1931→1954 ～6/2(日)

下関

下関市立美術館 ☎083-245-4131

所蔵品展No.163
「新収蔵品紹介／春の色彩」
～6/2(日)

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

企画展 幕末群雄伝
—下関に集った志士たち—
～6/2(日)

～ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館～

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

※空調工事等のため、2025年1月10日まで休館



当館はふるさと周南市の画家、尾崎正章の作品を中心に、地元の作家の作品を紹介する施設として、1995年に開館しました。空調工事等のためしばらく休館となりご迷惑をおかけします。この機会に尾崎正章の歩んだ足跡を当コーナーで紹介したいと思います。

尾崎正章ってどんな人？

2. 画家として出発

尾崎正章はどのようにして画家としての道を歩みはじめたのでしょうか。その足跡を1930年から1960年頃にかけてたどってみます。

「自画像」(34歳頃)1946年
油彩・キャンバス

胸の病気で徳山中学を休学し、尾崎は周東中学(現在の柳井学園高等学校)に編入しました。中学卒業後、彼は医者を目指して日本大学の予科に入学しましたが、自分には向いていないと文学部にかわります。

25歳のとき病が再発し、尾崎は療養のため京都へ移りました。そこで2年間、画商の「三角堂」に見習いとして勤めますが、神戸のコレクターの紹介で、当時大谷大学教授であった新村秀一と出会い、彼の勧めもあって再び絵を描き始めました。戦争が激しくなったため帰郷した尾崎は、戦後本格的に画家として歩みはじめます。

1946(昭和21)年に防長美術家連盟が結成され、河上大二、天野芳彦、前田麦二、尾崎正章や松田正平らが参加しました。尾崎が画家として活動を続けていく上で大きな影響を受けたのが、この防長美術家連盟でした。

「ヒロ子さん」1954年
油彩・キャンバス「夜あけ(残月)」1958年
油彩・キャンバス

彼らは後に「私が絵かきになれたのは防長美術家連盟と松田正平のおかげですよ。」^{注1)}と語っています。またこの頃、新村秀一の父、新村出の紹介で安井曾太郎^{注2)}に師事しました。

〈次回「風景をテーマに」に続く〉

注1) 対談「この道しかない、この道を歩く」(『尾崎正章展』図録 発行 新南陽市)

注2) 大正から昭和にかけての洋画家。梅原龍三郎とともに東京美術学校(現在の東京藝術大学)で教鞭をとった。

参考:「周南市制5周年記念 尾崎正章展」図録(発行 周南市美術博物館)

最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>



(松本)

平田本陣記念館では、市内の幼稚園や保育園の子どもたちによる、ぞうさんの絵が会場入口の壁いっぱい展示されて、壮観です。この展覧会が、子どもたちの心に残ってくれ、いいなと思います。

ミニコラム
ガス燈

島根県出雲市の平田本陣記念館で、「まど・みちのおうちゅう」展を開催中です。(5月6日まで)

まどさんが亡くなられた翌年(2015年)に当館で企画、開催し、2016、21年の間に、仙台文学館(宮城)、香美市立やなせたかし記念館(高知)、姫路文学館(兵庫)、常葉美術館(静岡)、北九州市立文学館(福岡)、瀬戸内市立美術館(岡山)、イルフ童画館(長野)、高志の国文学館(富山)の8館に巡回しました。当館のまど・みちお顕彰事業のひとつです。